

横浜市立六ツ川中学校 令和5年度 学力向上アクションプラン

1 学校の状況と地域の実態

- 校区内小学校から約9割の児童が本校に進学し、小中連携も計画的に実施している。また、地域は協力的で、地域で子どもを育成しているという体制があり、行事などが盛んに行われている。
- 体験的な学習に対する意欲が高い生徒が多いが、集中できない生徒や欠席が多い生徒も見られる。また、配慮を要する生徒への計画的な対応が必要である。
- 様々な年代、経験の職員がいて意欲的で活発であるが、より質の高いわかりやすい指導の研究が必要である。

2 中期学校経営方針

学力向上に関する指導の目標・方針（令和5年度末の姿）

- 学習の意欲を高め、主体的に課題を解決する力を育成します。
- 教育活動全体を通して、しなやかで強い心を育成します。
- 新学習指導要領に基づき、目指す資質や能力を育成する学習評価計画を含めた教育課程の実施に取り組みます。
- PDCAサイクルが機能する組織・運営を目指します。

3 横浜市学力学習状況調査等からの実態把握

(1) 学力の概要と要因の分析

令和4年4月に横浜市学力学習状況調査が実施された。各教科による学習の状況は次に示すようになっている。生活意識調査によると、家庭での学習時間や学習意欲は学年が上がるにつれて高まっているという傾向がある。1学年から学習意識を高める取組が必要であるとともに、学年が上がるにつれて高まる学習意識を学力向上につなげる手立てが必要である。また、同調査で、塾や家庭教師を含む家庭学習において、1,2年だと約3割の生徒（1年…30.5%、2年…28.7%、3年…13.3%）が、「ほとんどしない」、「30分より少ない」と回答した。授業における指導に加え、家庭学習の習慣化を図ることが必要であり、日頃から主体的で継続的な学びとなるような取組をしていくことが今後必要である。

同調査から、「挨拶を自分からしている（1年…46.1%、2年…61%、3年…71.7%）」「学校の授業に進んで取り組んでいる（1年…90.6%、2年…86.3%、3年…93.3%）」「学校図書館に行くことが好き（1年…64.1%、2年…63%、3年…59.2%）」「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている（1年…79.7%、2年…74.7%、3年…75%）」「自分たちで課題を立て、その解決に向けて情報を集めたり話し合ったり発表したりしている（1年…67.2%、2年…66.4%、3年…74.2%）」（それぞれ「どちらかといえば」を含む）という結果が得られた。生徒の状況を把握し、状況に合わせた指導を心がけていく。

(2) 教科学習の状況

国語科：対話的な学習に主体的に取り組む態度が見られる。ICT機器への対応能力もある。論理的な思考と語彙の量に課題がある。

社会科：知識や技能は身に付きつつあり、努力が見られる。思考力の定着に課題がある。

数学科：小学校の学習に躓き、遅れている子が多い。毎時に自己評価、単元ごとの振り返りを通して自己の課題解決を行い、力をつけた。

理科：理科への関心は高まりつつある、知識を利用して表現する力や、生徒による実技実験が不足したため技能の定着に課題がある。

英語科：言語活動に意欲的に取り組む生徒が多い。読む力・書く力の定着が課題である。

(3) 経年変化の状況と要因の分析（学習・生活意識調査も含めて分析）

月1回程度の学習優先日を設け具体的な支援が必要な生徒の基礎・基本の定着を図ったり、夏季休業中や定期試験前に補充的な学習相談を実施したりするなど、積極的に学習支援を行っている。また、全校で朝5分間の朝読書を設定し、知識を高める取組を行っている。教職員の指導力向上・授業改善に向け、校内授業研究を積極的に行い、各教科等で具体的な手立てを考え実践している。その結果、技能の定着など一定の成果は見られるが、発展的に物事をとらえ考える力や、学習内容を活用する力については、依然として課題が残る。

4 令和5年度 目標と具体的方策

令和5年度 目標

学習の意義や必要性を理解し、学習の意欲を高め、他者と協働するとともに主体的に学習活動に取り組む姿勢を育てる。

計画的に課題を解決する思考力・判断力・表現力を育てる。・学習の見通しや振り返りを活かした「主体的な学び」、協働学習や課題解決学習をととした「対話的な学び」の実現

「基礎的・基本的な知識・技能の定着」「自主的に学ぶ態度」の育成を目指す。

(1) 学校組織としての共通の取組

- **教科指導の充実**
 - ・基礎的・基本的な知識・技能の習得を図るとともに、「主体的・対話的で深い学び」の視点で授業改善をする。
 - ・思考力、判断力、表現力を育むために、「生活に根差した課題解決学習」や、「生徒が互いの意見を取り入れる活動」を授業で行う。
- **授業評価**
 - ・学力・学習状況調査の結果を活用して本校の生徒の特徴や課題を明確にする。
 - ・定期試験の結果、授業アンケート、授業での成果物等を活用して教科として指導と評価の一体化を目指す。
- **学習習慣の確立**
 - ・個人内評価と他者評価を活用して自己の学習活動の振り返りを行い、目標達成や課題解決の機会を設定する。
 - ・生徒が学習の見通しを立て、計画的に課題に取り組めるように、その内容や提示の仕方を工夫する。
 - ・学校図書館教育を充実させ、読書活動の時間をとおして興味や知識の幅を広げる。



(2) 教科等としての取組

国語

- 読書の意義を理解し、読書を通して語彙を増やし、考えを広げたり深めたりする。
- 学習の見通しをもち、資質・能力の育成のために自ら学習を調整できるようにする。
- 対話的な学習の中で個人内評価と相互評価を行い、目標達成のため粘り強く学ぶ。

社会

- 生徒が主体的に取り組むことができる単元の振り返りを行う。
- 対話的な言語活動を通して、思考・判断・表現力を育成する。
- 繰り返し学習することで知識の定着・技能の向上を目指す。

数学

- 技能の向上のため、基礎・基本演習を繰り返し行う。
- 対話的な活動を取り入れ、相手の考えを受入れ、理解し深める時間を設ける。
- 毎時の目標を提示し、それに対する振り返りを行い、課題解決を行う。

理科

- 実験・観察レポートの作成を通して、基本的な知識の定着と、科学的思考力を高める。
- 言語活動を充実させ、考えを表現する力を高める活動を行う。

音楽

- 互いの考えや技能を発表しあう場を充実させ、思考力、判断力、表現力を育み、実技技能の向上を目指す。
- 学習の成果を振り返り、自己肯定感を高めたり、課題を解決したりする力を育てる。

美術

- 題材ごとに導入を丁寧に行い、学習目標や学習(制作)の流れを明確に提示する。
- 視聴覚機器を用いてより多くの参考資料を提示したり、学び合いの時間を設けたりして発想力や思考力の向上を図る。

保健体育

- 課題発見活動を通し、単元のねらいを設定する。
- 課題解決のために毎時間めあてを設定し、めあてに沿って活動を行う。
- 授業前にランニングを行い、心肺機能を高め、持久力の向上を図る。
- 年間を通して、個人で高めたい体力を向上させる取組を支援する。

技術・家庭

- 授業のめあてを明確に提示する。
- 学習したことをお互いに共有する時間を確保していく。
- 到達度を自己評価、相互評価する時間を確保していく。
- 生徒が主体的に取り組める題材を扱う。

外国語

- 書く力を向上させるために、言語活動で話した内容や身近な内容を文にして書く活動を行う。
- 音読活動などに力を入れ、まとまった長さの文を読み理解する活動を授業に取り入れる。
- 自分の考えや意見をやりとりしたり、発表したりする活動を行う。

総合的な学習の時間

- スキルの習得と活用を通して、探究的な学習活動を充実させる。
- 思考力、判断力、表現力を育むために、「生活に根差した課題解決学習」や「生徒が互いの意見を取り入れる活動」を行う。

特別の教科 道徳

- 生徒が自らを振り返って成長を実感し、これからの課題や目標を見つけられるように工夫する。
- 生徒が多様な感じ方や考え方に接する中で、考えを深め、判断し、表現する力などを育む。

特別活動

- 学級活動、生徒会活動、学校行事を通して、多様な他者・多様な意見をもとに合意形成や意思決定する力を養う活動を行う。
- 自己の個性や役割を理解して、合意形成や意思決定したことに自発的に取り組む態度を養うための活動を行う。

個別支援学級

- 学習面では、基礎的・基本的な知識の習得のため、個々の課題に応じた活動を行う
- 生活面では、思考力、判断力、発信力・傾聴力の向上を目指し、生徒自ら問題解決に向けた活動を行えるよう工夫する。
- 小グループでの学習や活動を通し、共通課題を与え、生徒同士が共に考え、教え合う活動を通して自信をもち、深い学びが行えるよう努める。